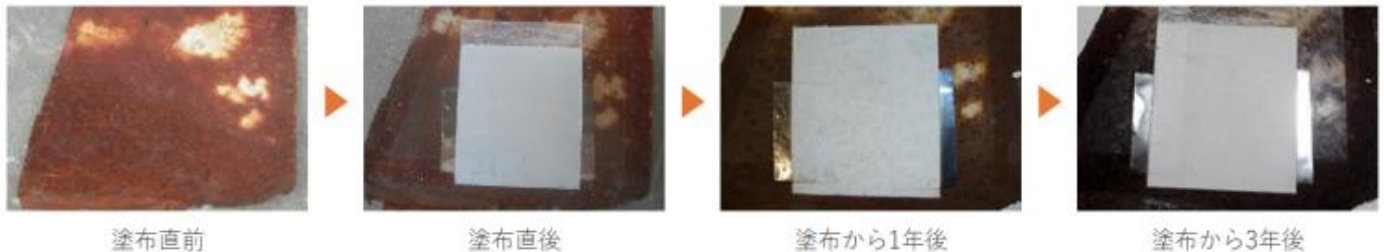


3Lコート・2LPコート ■特徴■

1、 漆喰素材を利用した長期間防錆剤

錆除去が特に必要なく、浮いている塗料をとる程度で防錆効果を発揮できます



2、 無機ファイラーと石灰系素材 を複合した断熱素材

軽量でありながら既存材料を凌駕する長期間断熱性

3、 漆喰材料とは思えない柔軟性

フィルムに塗ることも可能 （ PE 、 PP 以外 ）



4、 漆喰材料とは思えない強い接着性を持ちながら溶剤などは使わない安全性

5、 下地を問わず塗れます

無機、有機素材 を問いませんが、木材、P.P 、 P.E は NG となります

6、 色は自由に着色できます

また、蓄光材料を加え、蓄光ラインとしても施工可能

7、 汚れが付着しにくい

トップコートに液体ガラスをコーティングすることで汚れが付着しにくくなります(3Lコート)

一般性状試験結果		
試験項目	試験方法	試験結果
塗膜の外観	JIS K 5663	異常なし
低温安定性	JIS K 5600-1-1	異常なし
低温安定性後の作業性	JIS K 5600-1-1	異常なし
低温安定性後の塗膜の外観	JIS K 5600-1-1	異常なし
塗装作業性 2回塗り	JIS K 5600-1-1	異常なし
乾燥時間 20℃ 2時間以内	JIS K 5600-3-2	異常なし
乾燥時間 5℃ 4時間以内	JIS K 5600-3-2	異常なし
耐水性	23℃水道水 30日浸漬	異常なし
耐温水性	40℃温水 60日浸漬	異常なし
耐アルカリ性	JIS K 5600-6-1	異常なし
耐洗浄性	JIS K 5600-5-11	異常なし
耐湿潤冷熱繰り返し性	水中浸漬×18Hr後-20℃×3Hr後 50℃×3Hrを20サイクル	異常なし
付着力 常温	JIS A 6909	0.36N/≡ _リ m ²
付着力 浸水後	JIS A 6909	0.29N/≡ _リ m ²
付着力 温冷繰り返し後	JIS A 6909	0.26N/≡ _リ m ²
キャノンウェザー	2500Hr(15年相当)	合格
粘度 20℃ 6rpm mpa	B型 TVB-10型	19,000±3,000
pH	堀場 D-51	9±0.5
不揮発分	105℃ 3Hr	73±3%
塗料比重	—	1.6±0.05

施工要領書(3L コート)

- ① 下地の汚れ、ゴミを掃除します。
 - ② 塗装する面の周りに養生をします。
 - ③ 材料をよく混ぜます。
 - ④ コテやヘラなどで均一に塗っていきます【1 回目】
 - ⑤ しっかりと乾燥させます。
(気温が 20℃の場合で 1 時間、気温 5℃の場合は 3 時間を目安にしてください)
 - ⑥ コテやヘラなどで均一に塗っていきます【2 回目】
 - ⑦ しっかりと乾燥させます。
(気温が 20℃の場合で 30 分間、気温 5℃の場合は 1.5 時間を目安にしてください)
- ※セカンドコートに水性コート、サードコートにガラスコーティングを塗布する場合は⑦の後、ローラー・刷毛等で塗布し、乾燥させます。
- ⑧ 養生をはがします。これで完成です。

* 1～2mm 厚が仕上がりの厚みとなります。

* 5℃以下での施工はお控えください。

2LPコート ■特徴■

高耐候性／高耐久性

長く使えるから、ランニングコストが掛かりません。



従来より少ない工程数

工程数の短縮による、施工期間の短縮。



断熱効果

熱気や寒気をガードし、室内の温度を保ちます。



防錆効果

3年経ってもサビが浮き出ない。



2LPコート は、「水性防錆断熱塗料」です。塗装工であればスプレーガンで誰でも簡単に施工できるメリットから、無理なくコストダウンをすることが出来る塗料として、多くの施工業者から好評を頂いております。



Before



After



高耐候性／高耐久性

平成 25 年 日本塗料検査協会

促進耐候性試験 2000 時間 変化なし

エコヌリ FK はアクリルシリコン樹脂と漆喰系素材で構成された、促進耐候性試験 2,000 時間にも耐える新素材です。アクリルシリコン樹脂は耐久年数 12~15 年、漆喰系素材は時間の経過と共に強くなる素材です。

「平成 2 年日本塗料検査協会」の促進耐候性試験 2,000 時間において「著しい変色、割れ、膨れ及び剥がれを認めない」と言った性能を証明しました。一般的に、「促進耐候性試験 2,000 時間」は耐久年数 12 年相当と言われており、高耐久性の裏付けとなっています。

従来より少ない工程数



2LPコートを使った「屋根サビ塗替え施工」は従来の施工手順に欠かすことができなかった、ケレン1種と高圧洗浄が不要です。

エコヌリ FK はこれまで最も時間を要していた施工工程の省略による、施工期間の大幅な短縮が可能になります。それに伴い、これまでよりも早く塗布の工程に移ることが出来ます。結果、工期短縮による人件費の削減に大きく貢献しています。施工期間がこれまでの約 1/2 に短縮されることにより、次の現場に早く向かうことができるメリットも生まれます。

熱伝導率と熱抵抗値

熱伝導率(※1) の検査の結果

市販断熱塗料	0.12W / (m・K)
2LPコート	0.22W / (m・K)

(※1) 熱伝導率は、値が大きければ大きいほど、熱が伝わりやすいことを表します。

(※2) 熱抵抗値は、部位の熱の通りにくさを表す数値です。

熱抵抗値は、大きいほど熱が通りにくいことを表します。

熱伝導率はその素材の「熱の伝えやすさ」を表します。

屋内の温度変化を考えた場合、単純な素材の「熱の伝えやすさ」だけでは正確なデータとは言えません。

躯体への熱の伝わりやすさは「**熱抵抗値**(※2)」という値がより正確に屋内気温への影響を表すデータと言えます。

断熱効果について

結論から言えば、**2LPコート** は断熱塗料の **1.7 倍～2.4 倍** の断熱性能があります。

2LPコート の最大の特徴は、塗膜厚にあります。市販断熱塗料の塗膜厚が 0.03～0.05mm に対して、

2LPコート の塗膜厚は 0.13～0.16mm と、市販断熱塗料の約 3～4 倍の厚みがあります。

■断熱効果実験

実験：内容エコヌリ FK と断熱塗料をそれぞれ箱の上部に塗り、晴れた日の屋外に設置。箱内の 1 日の温度変化を温度計にて計測。

時期：温度変化の少ない 4 月に実施。

実験結果：熱抵抗値通り、エコヌリ FK は市場にある断熱塗料と比較した結果、箱内部の温度変化量が少ない塗料である。屋内の温度変化量が減るということは、空調による電気料金のコストカットが可能となる。

熱抵抗値 = 塗料の厚み ÷ 熱伝導率

断熱塗料の熱抵抗値：0.03～0.05mm ÷ 0.12W/(m・K) = 0.003～0.004(m²・K/W)

2LPコートの熱抵抗値：0.13～0.16mm ÷ 0.22W/(m・K) = 0.0059～0.0073(m²・K/W)



屋内の温度変化が少ないことによる、大きな節電効果

JIS	試験項目	試験結果
K 5600-1-1	塗膜の外観	しわ、へこみ、はじき、つぶを認めない
K 5600-1-1	乾燥時間	23°C:30分 / 5°C:1時間30分
K 5600-6-2	耐水性試験 720時間	23°C:異常を認めない / 40°C:異常を認めない
K 5600-6-3	耐熱性試験 720時間	40°C:異常を認めない
K 5600-6-1	耐アルカリ性試験 168時間	23°C:異常を認めない
K 5600-5-11	耐洗浄性試験	異常を認めない
K 5600-1-7	膜厚測定	測定点① 2024.9 μm / 測定点② 1978.7 μm 点
K 5601-4-1	ホルムアルデヒド放散量測定	0.03mg/L 以下 F☆☆☆☆相当
K 5600-4-7	鏡面光沢度測定	1.9
K 5600-5-3	耐衝撃性試験	異常を認めない
K 5600-6-1	耐溶剤性試験 168時間	異常を認めない
K 5400	耐沸騰水性試験 1時間	異常を認めない
K 5602	日射反射率測定	全波長域 300~2500nm:85.6% 近紫外及び可視光域 300~780nm :86.8% 近赤外域 780~2500nm:84.1%